

## 前立腺がん 骨転移時の新薬

# 製鉄病院で治療開始

77歳男性に 保険適用後、道内初

製鉄記念室蘭病院（室蘭市知利別町1）は、前立腺がんが骨転移した際に使う新薬「ゾフィーゴ」の治療を始めた。6月に保険適用が承認されたばかりの注射液で、道内での導入は初めて。ゾフィーゴは放射線（アルファ線）を出し、骨に取り込まれて強い効果を発揮する。標的とする骨のがん細胞以外への影響が少なく、副作用が出にくいとされている。

前立腺がんの治療は一般

的に前立腺と精のうを摘出する手術や、男性ホルモンを抑制する効果のある薬を投与するホルモン療法が行われる。ただ、時間の経過とともに悪化すると「去勢抵抗性前立腺がん」となり、抗がん剤で進行を抑えるしかなかった。

ゾフィーゴは去勢抵抗性前立腺がんの骨転移を伴う場合が対象となり、病院では24日、77歳の男性患者に初の治療が行われた。今後4週間ごとに6回注射す

る。

1回の注射の費用は3割負担でも約20万円と高額。さらに注射直後の患者の便・尿に放射性物質が含まれることから、特に家族に幼

児がいる場合は注意が必要。泌尿器科の立木仁医師は「効果が高く、副作用が少ないので積極的に進めた」と話している。

（芝垣なの香）